



じごぜんひろば

No.74 2012年(平成24年)1月1日 地御前地区コミュニティ推進協議会

クラス会

浜町 吉本 則昭

彼女たちの汗びっしょりで働く姿を見て「頑張る、日本」を感じました。被災された方々の、本来の笑顔が戻るまでには、多大な労力、時間、費用を必要としている現実があると思います。私たちの今回のボランティア活動も、繋がる長い活動の中の一コマと思います。この積み重ねが大きな結果を得るものになると実感しました。この期間の作業で本当に疲れましたが、ある方から反省会の席で「あの、お父さんが涙を流してお礼の言葉を話されました。私は、それで全てが癒されました」と話され、私も胸がつまりました。

また、お父さんは苦境の最終、我々に笑顔で接せられ、その心くばりにも頭が下がりました。



一緒に作業した仲間たち（右端が千原さん）

四十数年前にハワイへ移住し現地で結婚した恵子ちゃんが帰郷されました。十年前後の間隔で里帰りされ、そのたびにそれを口実の地御前小学校卒業生のクラス会がもたれ、恒例行事化しました。当然のように島田泉ちゃん達世話人が声をかけて下さり、今回は男女二十五名と船越先生が五月三十一日に「黒の森」に集い、相変わらずのはなしながら大いにもり上がりました。彼女の実家の勝手口が自宅の庭と接していて、クラス会の翌日垣根の剪定中に恵子ちゃんが軒下の洗濯物を取り込に出てこれられ「また逢いましょう」とおっしゃる。聞けば「明日はハワイへ帰ります」との返事でお名残り惜しいことです。「もう一人では帰してもらえない歳で」と容姿もお顔も瓜二つの娘さんの保護者同伴で、そうそう何時までもはいられないらしいです。お人形さんのように、かわいい美人の母娘で、みんなの人氣者です。彼女が帰ってくると知ると放つてはおきません。すぐにクラス会の話はまとまるのです。昭和二十四年

卒業の七十三歳前後の生徒と八十二歳の先生はまるで同胞の呼吸びつたりで、いくつになっても童心に帰れます。もう一人のケイコ（桂子）ちゃんは、思い出の抽斗に入られたとのうわさも聞き、交

地域の話題

河田悠希君

世界ユース大会に出場

地御前在住の河田悠希君(14)地御前小出身、佐伯中2年が8月22、28日にポーランドで行われたアーチェリーの世界ユース選手権大会に厳しい国内予選を勝ち抜き出場した。河田君は小学1年から廿日市市津田の佐伯国際アーチェリーランドを拠点に競技を続けアーチェリー部のある佐伯中に進学し地御前から通学している。大会予選では4位の成績で通過したが残念ながら、決勝では9位に終わった。しかし、来年度のジュニア・ナショナルチームの合宿に参加が決まっており、今年2月には地元サンチェリーで行われる全日本ユース室内アーチェリー大会での活躍が期待される。



練習に励む河田君

流範囲が狭くなりがちな歳になりつつありますので、今度は何時かとの思いで早い時期の再帰郷を催促して別れた翌日は晴天に恵まれて、国際線の翼も軽々と南の空へ彼女を連れ去りました。

八つ面神社の案内板除幕式が行われる

五穀豊穡と疫病退治の神様として地元住民から親しまれている八つ面(やつもて)神社。地主の渡辺操子さんはじめ地元関係団体や近隣住民ら約30名が集まり除幕式を催した。式では地御前郷土文化保存会会長、磯辺忠利さんから神社にまつわる説明があり、案内版の除幕が行われた。神社は野坂中学の東側に位置する。

案内板は地元出身の洋画家・小林千古生誕記念碑、鹿の子地藏に続き3カ所目の設置。案内板には神社の由来が書かれており、是非一度訪れ、郷土の史跡にふれて頂きたい。



関係者による除幕式

新春を迎え皆様の健康と多幸を

お祈り申し上げます



地御前地区コミュニティ推進協議会

会長 西田 弘展

『地御前に赤の他人はいない。』この言葉を年頭の挨拶としたいと思います。

本年、地御前地区コミュニティ推進協議会は35周年を迎え記念事業を立案中です。是非ご参画いただければ幸いです。次に、本年度総会後、関係会議の議を経て進めている新規事業について報告します。

① いろいろな団体が地区内に存在するが、何をしているか住民にとっては、わからない。対象となる人は同じ人で事業が重複している。協議の結果、連絡協議会的なものを立ち上げるということになり町連協、公衆衛生、自主防災、民児協も既に考えられていた事で準備委員会を経て2回の会合を開催13団体、名称を『地御前地区団体代表者会議』と決定。目的は、各団体の事業情報を交換し住民の便益を図るという位置づけで発足いたしました。

② 行政指導で進められて来た事業『災害時要援護者避難支援制度』の説明・学習会が多く町の町内会役員にご参加いただき開催されました。この制度は災害時自分の力で避難できない方に誰がその時に援助するかという取り決めを求めているものです。事が起きると援助できる誰もが、援助しなくてはならないわけですからここで結論的に出る言葉は、『向こう三軒両隣』日頃のつきあいを大事にしなければならぬ、と言うことです。また、『自助』自分の安全は自分を守ることで、そうした他人も助ける『共助』ができます。これは、現場での必須要素でみなさんが最も関心を持つておられる部分です。安全は全てに優先します。潮が引いて海岸に魚が跳ねていても避難を強制しなくてはならないのです。所詮人間は自然の一部、自然への畏敬の念、節理を忘れず、今後も啓発の

推進として同じ状況の町内会単位で学習会などに取組み、みんなで危険を考え災害発生時、最も良い方策を共通理解することが被害を最小に抑えることができ、最も大事な立ち直り時のエネルギー源となると思われます。本年もご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

専門部の活動状況

地御前地区コミュニティ推進協議会(以下、コ推協)事業は7つの専門部により運営されています。

各専門部の事業内容は、コ推協総会で討議されますが、広く地域の皆様にも周知し、ひいてはより良い町づくりに貢献します。

環境部

部長 井上 良宅

環境部は、「心に愛を・大地に緑を・まちに花を」をモットーに、環境を通じて地域に貢献しています。2001年(平成13)より協議を重ね、環境部会・安全部会・福祉部会で構成され2002年(平成14)市より事業費92万8千円の予算を戴き

新春懇談会のお誘い

日時 平成24年1月7日(土) 18時～20時30分

場所 地御前市民センター 講堂

会費 2,000円(当日徴収)

申込み 1月5日(木)までに

市民センターへお問い合わせの上お申込み下さい。

受付時間 月～金 9時～17時

主催 地御前地区コ推協

編集後記

▼天災は忘れたころにやってくると言われるが、このところ全くそれに関係なく現れる。しかも、境界なく世界的な現象結局は温暖化による、地球の悲鳴かもしれない。CO2排出大国の対応が懸念される。

▼「なでしこジャパン」で元気づけられた昨年であったが、騒がれ過ぎ、大丈夫か心配される。翻つて大関に昇進した、琴奨菊・稀勢の里、また、福岡マノンで快走した川内選手などの頑張りに拍手を送りたい。人々に希望と感動を与えてくれた。 Y・Y



綺麗に整備されたじごぜん花壇

正式に『地御前まちづくり委員会』が発足しました。以降、市民センター講堂横に環境部会の加工作業倉庫を作りました。

事業内容はじごぜん花壇・有用微生物・EM菌・EMW菌・えひめA2の培養実験(匂いのする物に特に効果)・環境看板立て・打ち抜き井戸・海のクリーンアップ作戦参加・山の植樹に参加・町内会掲示板修理、および屋根の修理、官民協働事業(外宮橋の修理・御手洗橋修理と緑色の塗装を市に依頼・ガードレールの塗装)・漁協婦人部とEMダンゴを作り、潮回しに投入、公園の防犯、安全の為植木を剪定野坂、田屋、後山・公園内の道(田屋、後山、青年会館)や地御前神社(長寿会、船主会連携)の草刈など行う。また、キラキラ公園の花壇整備草刈(町内会連絡協議会・

公衆衛生推進協議会・長寿連
合会・コミュニティ推進協
議会・環境部会 も行つ。『み
んなが使う公園をみんなでキ
レイにしましょう』

体育部

部長 横山 裕幸

体育部は今年度役員改正ま
た新しく部員が入り25名でス
タートしました。

「だれでも、どこでも、い
つでも」スポーツのできる環
境作り、『地域住民の体力づ
くりとふれあいの輪を広げ、
明るいまちづくりに努める』
を目標に活動しています。

5月第3日曜日は廿日市市
の行事である地区運動会。

今年度は5月15日に「第33
回地御前地区運動会」を楽し
く終えました。

初夏には日頃、コ推協に関
わりの少ない人に参加をと始
めた「親睦ゴルフ大会」も、
早いもので第4回目（鷹巣G
／C）を開催しました。

また、体育部員も毎年軽ス
ポーツの研修会を行い、今年
は「安全吹き矢フリーブロー」
の体験をしました。

スポーツの秋にはグリーン
フィールドで「第5回地御前
地区町内会対抗親善グラウン

ド・ゴルフ大会」を19町内会
118名が参加し笑顔で親善
しました。

食欲の秋は「ふれあいハイキ
ング・宮島」でみかん狩りを計
画しましたが、生憎の雨で残
念ながら中止となりました。

初春は廿日市市健康推進課
が主催する「ハッラツ！交流
ウォーキング」への協賛。コ
ースは地御前市民センターを
スタートし、田屋地区沖島橋
から海岸沿いに扇園地区へ向

かい、宮内串戸廿日市パーク
ゴルフ場の外周を1周して折
り返し、同じコースで市民セ
ンターへ帰るといふハッラツ！
交流ウォーキングです。そし
て「春のグラウンド・ゴルフ
大会」を開催の予定です。一
年を通して色々と計画してい
ますので、奮ってご参加の程
よろしく願います。



生活安全防災部

部長 村上 博美

生活安全防災部と名称を改
めて4年が経ち、現在24名の
部員で活動しています。内容
としては、地域の皆様が安全
で安心して暮らせる住みよい
町を目指し、高齢者のための
「交通安全」「振り込めサギ」
また、生活に役立つ講演会を
年数回、市民センター等との
共催で開催しています。

また、夏季・冬季のウォー
キングパトロールへの参加、
さらには各町内会の安全と防
犯のために防犯灯の新設・取
り替え、さらに防犯器具の貸
し出しなどにも取り組んでい
ます。

これからも住み良い町づく
りのお役に立てるよう部員全
員が協力して頑張りたいと思
います。町内でお気付きの点
がありましたら部員までご連
絡いただければ幸いです。

青少年部

部長 木戸八寿子

青少年部は、青少年の健全
育成を目的として、22名の部
員で活動しております。主な
活動は、次の通りです。

とです。福祉部としてこれか
らも、このような事業を推進
出来るように努めたいと思い
ます。

福祉部の年間事業は①ささ
え会（独居高齢者への食事会・
3回）②サロン活動支援（サ
ロンの立ち上げや活動支援）
③講演会（年4回実施）④昨
年後半から取り組んでいる災
害時要援護者避難支援事業等
があります。

文化部

部長 磯辺 忠利

文化部は、地御前郷土文化
保存会主催の伝統行事などに
積極的に参加し、諸行事を盛
り上げております。



御陵衣祭、神輿の行列

地御前の伝統行事は、とん
ど祭り、御陵衣祭（流鏑馬神
事）、管絃祭、盆踊り、秋祭
り、（青年会の俵もみ、神楽

大会の催しを隔年に開催）な
ど郷土文化を途絶えることな
く地域の皆さんと共に継承し
て行きます。

子どもたちの集いでは、毎
月第3土曜日に「どんぐりく
らぶ」を通じて、昔の遊びで
世代間のふれあいの場を作る
と共に、子どもたちの遊びで
は「竹トンボ・水鉄砲・叩き
コマ・凧つくり（凧揚げ）ソ
ーメン流しでは箸と器、彫刻
でゴム印をつくり」を子ども
たちで作り、作る楽しみと遊
び方を教えながら、小刀、鋸、
金槌など工具の安全な扱い方
を指導しています。

また、社会勉強として、地
域の皆さんと一緒に、廿日市
漁民の森づくりイベントに参
加して植樹を行い、海や川の
大切さを学びます。

また、市民センター主催の
「史跡めぐり」に参加して史
跡・名所を学びます。今年度
は、どんぐりクラブの新しい
試みで、地御前の史跡・名所
の大型双六つくりで地域の歴
史を学び「どんぐりクラブ」
活動事業に活用して行きます。

地御前小学校の「小学校ク
ラブ活動」は、運動場を使用
してリーム回しや、竹馬作り
など、どんぐりクラブと同様
に、昔の遊びを行っています。

①地御前に於ける年中行事
（御陵衣祭・管絃祭）時
のパトロール

②年2回のプレイパークの
実施

③通学合宿の開催

中でも、「プレイパーク」
は、平成16年度から始めて、
今年で6年になります。近年
子どもたちは、家の中の遊
びが多くなり、野外で思いっ



きり遊ぶことが少なくなつて
おります。プレイパークでは、
子どもたちを自由に遊ばせる
ことをモットーに、年2回（夏
休みと春休み）青年会館前の
広場で開催しております。毎
回、20～30名の児童が参加し
ています。ダンボールを使つ
て秘密基地を作ったり、自分
で作ったおもちゃ（竹とんぼ、
凧、割りばし鉄砲、水鉄砲）

地御前保育園では、お正月
の「新年会」や、夏祭りの「夕
涼み会」で一緒に遊んでいま
す。その他、年末には地域の
皆さんと、しめ縄飾りの作り
方を指導して、しめ縄の言わ
れ等を学び作る楽しさを味わ
っております。



広報部

部長 矢吹 恭久

年2回（1月、7月）発行
の当コ推協広報誌「じこぜん
ひろば」を通じて、地域の行
事や町づくり事業の周知をは
かり、住みよい活気あふれる
町づくりを目指します。

各専門部主催の事業には可
能な限り参加し取材活動を行
っています。現在部員七名で
活動していますが、地御前全
域の情報をリアルタイムに掴
む為には、幅広い情報収集が
必要と思われます。より良い
誌面作りに地域の皆様からの
情報提供を切にお願い致しま
す。

で遊んだり、昔の遊び（竹馬、
コマ回し、フラフープ）をし
たりしています。

また、夏には、ソーメン流
し、冬には、焼き芋などもし
ます。危険なことは注意しま
すが、子どもたちが自由に遊
べるよう、大人は「口をだし
ても手は出さない」を基本に
しています。地御前小学校の
児童のみなさん、ぜひ遊びに
来てください。

通学合宿は、昨年からはじ
め、今年は7月10日から2泊
3日、子ども26名、ボランテ
ィア23名の総勢49名が集いま
した。子どもたちの元気な姿、
楽しそうな顔を見ると、
私たちも元氣になります。青
少年部では、私たちと一緒に
活動していただける方を、募
集しております。興味のある
方、是非ご連絡を！

福祉部

部長 重富 欣治

大型ごみの 搬出時事業を行って

民生委員の活動のひとつに
一人暮らしの高齢者の訪問が
あります。高齢者と話してい
るときに『大きいゴミをだす
のはとても大変です』と言わ
れ、これを地域の中でお互い

寄稿

東日本大震災支援 ボランティアに参加して

丸字町 千原 保仁

去る8月1日～5日の5日
間県社協主催「ひろしまボラ
ネット応援隊」第4陣に廿日
市社協のボランティアグルー
プの一人として参加しました。
訪れた宮城県岩沼市は震災
からほぼ5か月経過した現在
でも、まだ手付かずと思われ
る場所がたくさん見られ、目
の当り見る姿に、地震、津波
の巨大なエネルギーに驚愕し
ました。一行はボランティア
40名で（学生20一般20）病院
（10）農家2軒（それぞれ10）
で活動しました。私は農家の



ビニールハウスの鉄アンクル
（45mm程）（写真）の撤去を
担当しました。今回参加した
女性12名（学生）でしたが、
「なでしこジャパン」ここでも
頑張っています。